

第12号 南部箕蚊屋広域連合

まめ・カフェ通信

～第12回まめ・カフェ開催報告～

令和4年2月8日（火） 14:00～15:30
オンライン開催（Cisco Webex Meeting）
参加者 36名（参加者 33名、スタッフ 3名）
（保健師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員、
介護福祉士、認知症地域支援推進員、その他）

まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや?（元気ですか）」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

まめ・カフェです♪

講座

『高齢者虐待について』

一般社団法人 権利擁護ネットワークほうき
理事 川井 克一 氏



第12回のまめ・カフェは権利擁護研修会と同時開催となりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大によりオンラインでの開催となり、グループワークを実施することができませんでした。

講師に権利擁護ネットワークほうきの川井先生をお招きし、高齢者虐待について弁護士の立場からお話ししていただきました。

現状や法律についての説明があり、養護者による虐待について初動期から終結までの対応の流れを事例を踏まえながら聞くことで、参加者の皆さんも具体的にイメージできたのではないかと思います。

講座の後には、事前に募集していた質問に対し回答する時間を設け、業務にあたる中での疑問や悩みについて、わかりやすく回答して頂きました。

まめ・カフェは、飲みものやお菓子を食べながら、気軽な雰囲気でも職種が話すことが目的ですが、コロナ禍の中、オンラインでの開催に難しさを感じています。



《参加者の感想》

- オンラインで研修が受けられるのはとても良いと思う。
- 虐待が発生、発見から通報までの手順を詳しく知ることができて良かった。
- 成年後見制度へのつなぎ方、概要がとてもよくわかった。
- 事例を通し虐待が疑われる場合の流れを知ることができた。自身の担当で同じような案件になった場合、スムーズに支援が行えるようにしていきたい。
- 知識としては持っていたが、わかりやすい研修だった。本人を守るためだけでなく、虐待をしてしまう当事者を守るためにも通報は必要だと思った。
- 虐待をする家族に対しても、通報することで何らかの支援につながるということの理解ができた。高齢者の支援を行っていく中で、虐待かも？と思う事実があれば躊躇せず通報することが、結果、高齢者や介護者の利益になることがよくわかった。
- 気になることがあればまずは職場内での共有や相談、包括支援センターへ相談していくことを改めて認識できた。通報後の流れとして家族に対する支援も検討されることは心強いと感じた。
- 弁護士という専門職の方からの話で分かりやすかったと思う。高齢者虐待の問題は家族の事情もあり慎重に対処しなければならないと思うが、気づいたときには見逃すことのないよう相談等行いながら高齢者の人権を守っていかなければならないと思う。
- これは虐待ではと思う場面がある時は事業所の主任、担当ケアマネージャーに連絡している。今回、市町村側の虐待の対応の流れを確認させてもらった。高齢者、養護者の様子をしっかり確認し、話を聞いて、関係機関、主治医、民生委員などかかわりのある人からの意見も参考にして、当事者にとって一番良い解決方法を考えることができたらと思う。
- とてもわかりやすかった。今後もよりリアルなケース報告を踏まえた現場の方々からの講義を聞くことができたらと思う。
- 介護サービス提供者としては、もしかして…気になる…と思った時が情報提供をするタイミングだと感じることができるとお話だった。とてもわかりやすかったと思うし、保険者側とすると受付後にごどう動いているのかをお話し頂けて、いつもモヤモヤとうまく説明しきれないと感じていたことをお話いただけてスッキリした。

☆アンケート結果の一部をご紹介します。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！